

もりおか歴史文館だより 3

Rekibunkan News Vol.

(2013.6.7 発行)

- ◆ 館長だより「ふたば」vol.3
- ◆ 平成24年度企画展のご紹介
- ◆ 特別展「お菓子で笑顔に ～森永製菓の企業資料から～」を終えて
- ◆ 歴史文館スタッフ伝言板 ～その参～ 【特集：ボランティアいちおし！ 歴史文館おすすめスポット】
- ◆ 学芸トピックス「記録されたお伊勢参り」
- ◆ 所蔵資料紹介「南部家伝来提帯」
- ◆ 刊行物について
- ◆ インフォメーション



◆ 御旧 領名所図巻 (江戸時代)

藩営牧場「南部九牧」のうち、上の資料には木崎野（青森県三沢市）で農民が柵や土手を巡らした牧袋に馬を追い込んで捕獲する作業（野取）の様子、下の資料には駒捕の様子が描かれています。

奥州は古くから馬産が行われ、盛岡藩でも重要な産業のひとつとして領内に9ヶ所の直営牧場を設け、優良馬の育成を行いました。それらの馬は「南部駒」と呼ばれ、江戸時代前期には幕府や諸大名の馬買役人が訪れるほど高い評価を得ており、江戸幕府の初代将軍である徳川家康も南部氏から馬や鷹の献上を受けていたことが記録されています。幕府は、享保年間（1716～1736）に直営の牧場経営を開始し、より優れた馬を育成するために外来馬の導入を図ります。馬産地として評価の高かった盛岡藩にもペルシャの牝馬1頭が下げ渡されました。

東日本では蒼前神・駒形神・馬頭観音など馬の守り神といわれる神様が各地に数多く祀られています。盛岡の初夏の風物詩として親しまれている「チャグチャグ馬コ」も蒼前参りのひとつであり、この地域の人々の馬に対する深い愛情が感じられます。



館長だより ふたば vol.3

早いもので、もりおか歴史文化館（通称：歴文館^{れきぶんかん}）は2011年7月の開館から、あと少しで3年目を迎えます。

館内には2007年に放映されたNHK連続テレビ小説『どんと晴れ』のテーマともなって登場した「来者如帰^{らいしやにきき}（来る者帰るがごとし）」の扁額を掲げており、私をはじめ職員一同、訪れた皆様に盛岡の魅力を存分に知っていただき、安らぎの時間を過ごしていただけるよう常に心がけております。

その思いに添えていただけたのか、すでに45万人を超える入館者を数えております。ご来館いただいた皆様に心から御礼を申し上げます。

とはいえ、いまだに「何処にあるのですか？」と聞かれることもあり、館長としては深く責任を感じ、もっともっとPRしていかなければならないと心を新たにしております。

新年度も恒例イベントの「盛岡弁で語る昔話」や「昭和の遊び体験」をはじめ、まゆ人形などの手作り系ワークショップや芸術観賞会など皆様に喜んでいただけるような様々な企画を検討しています。また、新企画の「畑中美耶子の館長講座」が4月からスタートしました。各界のゲストをお招きし、岩手、盛岡の歴史と文化について語っていただきます。どうぞお気軽にお出で下さい。

雨が降ったら歴文館

カンカン照りにも歴文館

皆様のお越しを心からお待ちもうしあげておりやんす
ぜひ一度、おでっておくれってくなんせ。

もりおか歴史文化館館長 畑中美耶子

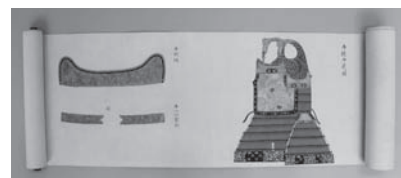
平成24年度企画展のご紹介

第4回企画展 4月28日(土)～7月1日(日)

「安倍氏伝 ～語り継がれる東北の「兵」～」

いわてディステーションキャンペーンに合わせ、平泉を開いた奥州藤原氏の祖・安倍氏の興亡の歴史と、後世様々な形で語り継がれてきた伝承を取り上げ、盛岡に残る安倍氏の足跡を紹介。

展示に加えて、かつてNHKドラマ『炎立つ』で使われた安倍氏の甲冑の着用体験コーナーを設け、また「安倍氏とは何者か」をめぐって高橋克彦・井沢元彦両氏と館長が対談した映像を放映するなど、難しい時代・テーマに親しんでいただけるよう工夫しました。



「櫛八幡御神納義家公御鑑図」

第5回企画展 10月17日(水)～12月16日(日)

「あの日あの時の盛岡 ～絵はがきにみる明治・大正・昭和の風景～」

2011年開催した「あの日あの時の盛岡 ～昭和レトロの世界（館蔵写真展）～」の続編として開催しました。社会的な出来事やイベント、風俗や名所を題材とした館蔵の絵はがきを関連資料とともに展示し、移り変わる盛岡・岩手の風景を紹介。

歴史常設展示室で放映している大正時代の無声映画「LIGHT OF IWATE（岩手の輝き）」のオリジナル映像を弁士による解説付きで全編上映（特別講座）し、好評を博しました。



企画展室内の情景

第6回企画展 1月12日(日)～3月10日(日)

「館蔵人形展 ～季節を彩る人形たち～」

本展では、盛岡藩主南部^{なんぶ}家、また盛岡城下でも屈指の豪商であった中村家^{なかつくみ}「糸治」ゆかりの節句人形を中心に展示し、時代を超えて日本の四季を彩り、私たちの目を楽しませてくれる人形を、その用途・歴史の変遷に沿って紹介しました。

市民の方々からのひな人形やつるし雛の出品、またひな人形（貝雛、古裂雛など）に関するワークショップを連動開催するなど、多方面から市民の皆様にご協力いただきました。



「糸治」のひな人形段飾り

もりながせい か

もりおか歴史文化館 学芸員：野中昭美

平成24年7月21日（土）～9月23日（日）休館日を除いて63日間の開催中、来館者64,739人、開館より入館者30万人目達成の節目にも恵まれた。今回の特別展は、夏休みの子どもたちを対象として「世代を超えた家族連れが楽しめる場を湧出すること」「東北ではなかなか鑑賞することができない資料を多くの方に観ていただきたい」などの目的が契機となった。

展示の内容は、日本の製菓産業のパイオニアである森永製菓株式会社が、創業から113年間蓄積してきた明治期からのお菓子の歴史資料を中心に、森永製菓とも繋がりのあった盛岡の老舗和菓子店などが所蔵する資料を加え、文明開化を通して西洋菓子が国内に根付く時代を「西洋菓子、子どもたちと出会う」、関東大震災や戦争を乗り越える中でのお菓子の存在を「心を支えるお菓子」、時代の中で変わりゆくお菓子の形態などを「笑顔をつくるお菓子たち」の3つのテーマに分け、当時の写真や新聞記事、ポスター、パッケージ、CM映像など300点を超える資料を紹介した。また、お菓子の役割や歴史に関する講演、「笑顔にする」お菓子を工作、パッケージを利用するなどのワークショップを開催した。

アンケートの展示評価では、「とてもよかった」「よかった」との回答が73%（105回答中）と高い評価を得た。その理由には、「なつかしさ」「楽しさ」を伺える記述の他「日頃みることができないもの」「盛岡でこういった大手企業の展示がみられて幸せです」という企業資料という新しい分野の展示を行った評価へつながる記述や「盛岡の老舗和菓子店の資料を取り上げたことが分かりやすかった」という感想もみられた。

今回、取り上げた企業の歴史資料は、一企業の資料という狭義を超え「企業史料」という分野として、日本が文明開化から100年以上経つ現在まで大きく変化していった経済活動史や生活文化史、デザイン史など、国内の歴史の流れを語る上で欠かせないものとなってきた。盛岡にも創業100年以上を超える老舗店や企業が存在する。今後、それらの分野にも視点を置き、様々な文化や歴史を広く学べる場として、また、遠くへ行かなければ鑑賞できない展示を展開する場としても、多くの来館者の皆様が、多様な文化に触れ、幅広い視点を深めることのできる展示を企画検討していきたい。



企画展示室の情景



ワークショップ「世界でひとつだけのお菓子箱」の様子

歴文館スタッフ伝言板 ～その参～ 【特集：ボランティアいちおし！ 歴文館おすすめスポット】

もりおか歴史文化館では、2011年からボランティアによる活動を行っています。館内でのお客様のご案内やイベント・ワークショップの補助、広報物の発送作業、バリアフリー対応など、博物館の運営を支える活動を基本に幅広く活躍しています。今回はもりおか歴史文化館の頼れるパートナーであるボランティアのみなさんに、館のおすすめスポットを紹介していただきます。

町なか情報センターには、盛岡の町あるきを楽しむ情報が満載です。お気軽にお声がけください。(紀)



ミュージアムショップでは、かわいいグッズをたくさん取り揃えています。また、人気の100円くじにはハズレがないので、ぜひ挑戦してみてください。

祭り常設展示室では、「チャグチャグ馬コ」と「盛岡さんさ踊り」について、映像で分かりやすく紹介しています。実物大の馬コと一緒に写真を撮ることもできるので、是非、遊びに来てくださいね。(希)



山車展示ホールにある2台の山車。明治期の山車を再現したものは高さ9mもあり、圧巻です。太鼓打ち体験のイベントも行っていますので、親子で楽しめるスペースです。(三代)



新山舟橋は日本三大舟橋として、江戸時代から多くの人々が盛岡城下の表玄関口として利用していました。舟橋があった界隈は舟運として北上川を利用し、江戸や大坂への物流の拠点として大いに賑わい栄えた地域でもあります。明治7年に明治橋が架けられ、新山舟橋はその役目を終えました。第1展示室では、ありし日の舟橋の姿を見ることができますよ！(幸)

2階歴史常設展示室の第1展示室では、岩手の歴史絵巻が年代順に展開されていて、蝦夷、平泉、源頼朝、そして南部氏に至る盛岡城築城以前の様子を時の人物とともに知ることができます。

私は第1展示室で、幕府と盛岡藩との関わりや江戸時代の概略を話して、来館者の皆様に「盛岡」への認識と興味を新たにいただき、それからおもむろに第2展示室「城下町盛岡」へのご案内しています。(時)



お気軽におでっくなんせ

歴文館の見どころはたくさんありますが、特に私のオススメは第5展示室です。ここは盛岡ゆかりの先人の資料や作品、南部家の至宝などテーマごとに展示が変わる必見のスポットです。また、休憩ラウンジの大きなガラス窓から眺める景色は、四季折々の風情があり、落ち着く場所です。私はこの場所を「借景」と呼んでいます。どうぞ足をお運びください。お待ちしています。(木)



幕末期の盛岡藩は、幕命によって海防強化や蝦夷地（北海道）警備などに当たりました。北海道の函館や室蘭などには、盛岡藩の陣屋や砲台跡の遺跡があります。第6展示室で、盛岡藩が苦闘した北方警備の様子をご覧ください。(喜)



私のオススメは、第2展示室の絵巻シターです。260余年前の城下町盛岡を進んでいく参勤交代の優美な行列、江戸時代と現代が重なる町並み。8メートルもある大画面は、盛岡弁による音声案内と共に、一見の価値がありますよ。(義)



第3展示室には、盛岡城の再現模型があります。盛岡藩初代藩主である南部信直は、三戸から拠点を移し、不来方の地に新たな城を造ります。築城工事は3代に渡り、約40年の歳月を経て完成しました。現在も残る美しい石垣は、ありし日の盛岡城の姿を思い浮かべ、私たちの心に四季の生活の中心的役割を果たしています。本丸三重櫓から見る城下の姿を偲び、先人の残したこの地を多くの方に知ってほしいと解説しています。(宮)



開館してから毎月開催しているイベント「盛岡弁で語る昔話」。なかなか日常で話すことがなくなってしまった盛岡弁を、これからも大切に伝えていきたいと思ひます。(語り手一同)



今年（2013年）は「式年遷宮」^{しきねんせんぐう}（註1）です。そのため、「お伊勢参り」ということばを見聞きすることが多いのではないのでしょうか？

古くは、天皇かその代参人以外が伊勢神宮に参詣することは堅く禁じられていましたが、平安時代後期になると貴族の間で寺社参詣の風習が広まり、次第に庶民の間にも「お伊勢参り」が普及するようになりました。

江戸時代には全国津々浦々の人々が「一生に一度は」と、憧れるようになり、数少ない旅の機会に外の世界に触れて遊学する様子は、当時のベストセラーである『東海道中膝栗毛』^{とうかいどうちゆうひざくりげ}に描かれています。

盛岡藩の歴代家老席で197年間に渡り書き続けられた日記『雑書』にも「お伊勢参り」についての記載があり、寛文2年（1662）5月6日の項には「伊勢参宮のついでに松島と平泉を見物したい」という申し出が橋場（雫石町）の番所にあったことが記されています。（右史料）。

皆さんも「一生に一度」お出かけしてみてもはいかがでしょうか？

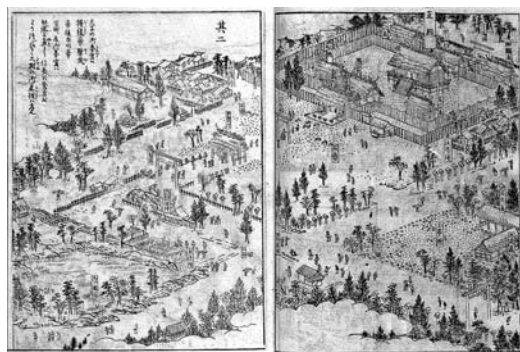
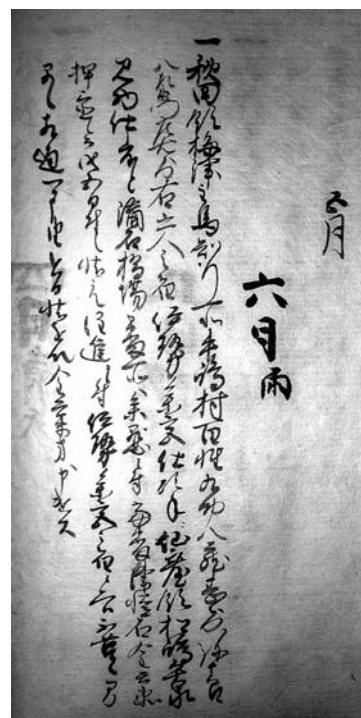
註1 式年遷宮の「式年」は定められた年という意味で、伊勢神宮においては内宮・外宮の正殿などを新たに建て御神体を新宮に遷すことであり、定期的（20年）に行われます。第1回の式年遷宮が内宮で行われたのは、持統天皇4年（690）のことで、それから1300年に渡って続けられています。

註2 名所図会は、江戸時代末期に刊行された「観光ガイドブック」。挿絵を多用して各地の名所旧跡を紹介し、庶民に親しまれました。

一 秋田領梅津主馬知行所牛嶋村百姓九助、八蔵・甚右衛門・弥十郎・八左衛門・庄右衛門右六人者、伊勢参宮仕次手三仙台領松島・平泉見物仕度と滴石橋場御番所へ参懸二付、当番津軽石金兵衛押置候で、昨五日付之状にて注進二付、伊勢参宮之者一候へ八不苦候間、早々相通可申由、今日状を以金兵衛方へ申遣ス

五月

六日 雨



『伊勢参宮名所図会』(註2) 外宮の正宮

◆所蔵資料紹介

このコーナーではもりおか歴史文化館が所蔵する南部家伝来の資料をピックアップしてご紹介していきます。

盛岡は近世大名南部氏によって開かれた城下町です。盛岡藩主南部家は鎌倉時代から続く名家であり、武門を象徴する武具を筆頭に、装束や調度品、書跡など名品の数々が今もなお残されています。

No.2 南部家伝来提帯^{さげおび}（県指定有形文化財）

提帯は、江戸時代後期に大名家の正室や姫君などの身分の高い女性が、衣替えの期間中（4月1日～9月8日）に身に着けた特殊な帯です。帯の両端に藁を束ね和紙で包んだ細長い円すいの芯が入っており、結んだ際に後ろでトンボの羽のように横に張りださせ、その部分に腰巻という絹の小袖をかけて着用しました。

当館所蔵の南部家伝来の提帯は、美しい絹の錦織で覆われた「牡丹唐獅子模様錦提帯」「白地菊鼓青海波模様錦提帯」「こげちゃじしつぼうばたんふじぎくげんじくろまもようさげおび」「焦茶地七宝牡丹藤菊源氏車模様提帯」「蝶菊花模様錦提帯」「しろじふじばたんつつかもようしきさげおび」「白地藤牡丹鼓模様錦提帯」の計5筋。

全国でも残っている数少ない保存状態の良い提帯のうちの5筋であり、南部家に伝来したということが確かなこと等から、本年4月に岩手県指定有形文化財となりました。



蝶菊花模様錦提帯

◆刊行物について（購入方法など）

◎図録紹介

種 別	誌 名	価 格	送 料	備 考
図録	『もりおか歴史文化館常設展示ガイド』	700円	210円	残部あり
図録	開館記念特別企画展 『南部家の至宝 一名品が伝える盛岡の歴史—』	500円	180円	残部あり
図録	第2回企画展 『あの日あの時の盛岡 —昭和レトロの世界—』	600円	290円	残部あり
図録	第5回企画展 『あの日あの時の盛岡 —明治・大正・昭和の風景—』	500円	180円	残部あり

※送料はゆうメール料金です

◎刊行物のお求め方法

- ・直接購入のご案内：もりおか歴史文化館のミュージアムショップで販売しています。
- ・郵送でのご購入：①電話（019-681-2100）またはE-mail（info@morireki.jp）で事前にお求めの図書の在庫状況をご確認ください。
- ②希望する図書の冊数、および氏名・送付先・ご連絡先を記入いただき、代金を下記宛に現金書留でお送りください。郵送料は切手で、図書代金は現金でお願いいたします。
- ③代金到着後、図書を発送いたします。

◆平成25年度インフォメーション

夏

第8回企画展「まねびて学べ ～寺子屋・城下の学び～」

会期：7月20日（土）～9月16日（月・祝）

内容：お手本にならって覚えた「あいうえお」。みんなで声を出して読んだ教科書。何度も間違えて覚えたかけ算九九。私たちが、繰り返し先生の手本を真似て学び通った小学校は、江戸時代に多く作られた「寺子屋」が基になったといわれています。寺子屋では、字を学ぶ「習字」、読みを学ぶ「素読」、そろばんを使った「計算」など「読み書きそろばん」を中心に、生活していくために必要な知識や礼儀作法なども学んでいました。

盛岡城下でも明治期の調査により20件を超える寺子屋があったことが分かっており、その姿を伝える資料が残っています。本展では、盛岡に残る寺子屋資料、『往来物』とよばれる教科書、学びに使われた道具などを通して、盛岡に江戸時代から明治期まであった寺子屋の姿をご紹介します。

「まね（真似）びて学べ」現在の学校と比べてみながら、寺子屋の学びの面白さを探っていきましょう！



「主従心得草」より

秋

第9回企画展 「あの日あの時の盛岡 part3 ～盛岡文士劇と作家たち～」

会期：11月2日（土）～12月23日（日）

内容：昭和・平成の盛岡文士劇の歴史を、「ゆかりの作家たち」をキーワードに、関連映像・資料とともに紹介します。



大正2年（1913）開場の盛岡劇場
第8回～第13回文士劇の会場



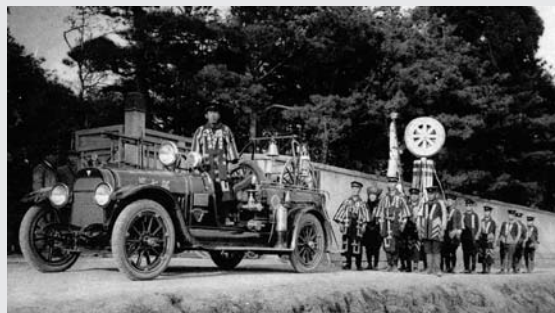
現在の盛岡劇場
平成2年（1990）に復活した文士
劇の会場

冬

第10回企画展 「南部火消の世界 ～粋でいなせな男たち～」

会期：1月11日（土）～3月9日（日）

内容：火消たちが着用していた刺子半纏を皮切りに、南部火消しに関わる歴史と文化を紹介します。



盛岡消防組第七部（大正時代）

もりおか歴史文化館 平成 25(2013)年度 開館カレンダー

平成 25(2013)年 4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

平成 26(2014)年 1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

- **休館日** ※毎月第3火曜日（祝・休日の場合は翌日）及び年末年始（12月31日～1月1日）
※このほか、**10月2日～8日は、全館くん蒸消毒のため臨時休館**いたします。
※10月15日（火）は開館いたします。

- **部分開館日**（1階のみ開館、2階展示室は閉室いたします）

大切なお知らせ

当館敷地内への観光バス乗り入れについて

当館敷地内への大型バスの乗り入れにつきましては、警察等と協議を重ねてまいりましたが、2012年9月1日（土）から、**観光バス（緑ナンバーのバス）に限り、当館敷地内に乗り入れて「乗降」することが可能となりました。**

※敷地内での「駐車」はできません。近隣の駐車場や臨時駐車帯をご利用ください。

※詳しい情報は当館ホームページにてご確認ください。 <http://www.morireki.jp/>

ご利用案内

【開館時間】

4月～10月 9:00～19:00（2階展示室への入場受付は18:30まで）
11月～ 3月 9:00～18:00（2階展示室への入場受付は17:30まで）

【休館日】

毎月第3火曜日（祝・休日の場合は翌日）
年末年始（12月31日～1月1日）

【入場料】

1階は無料です。
2階展示室は下記の入場料が必要です。

	個人	団体(20人以上)
一般	300円	240円
高校生	200円	160円
小・中学生	100円	80円

- 次のいずれかに該当する方は、無料で入場できます。
1.障がいをお持ちの方やその介護をなさる方（障がい者1人につき1人まで）。
2.盛岡市内在住で65歳以上の方（証明書をご提示ください）。
3.小・中学生のうち、盛岡市内在住または就学の方。
○盛岡都心循環バス「でんでんむし」の一日フリー乗車券（当日有効のものに限る）をお持ちの方は、団体料金で入場できます。

所在地・交通のご案内



- 【鉄道】 JR盛岡駅下車、徒歩約20分（開運橋～大通り経由）
【車】 東北自動車道 盛岡IC/盛岡南ICからそれぞれ約25分

《盛岡駅からの交通案内》

- 東口から「盛岡バスセンター」行き、または「でんでんむし」に乗車約10分、
「県庁・市役所前」下車、徒歩約4分
○東口からタクシーで約10分

もりおか歴史文化館

〒020-0023 盛岡市内丸1番50号
Tel:019-681-2100 Fax:019-652-5296
<http://www.morireki.jp/>

